

令和元年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

重点目標	課題	評価指標と活動計画		実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題	
1 学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力をもった生徒を育成する。	(1) 計画的、効率的な授業の展開	評価指標	1	「主体的で計画的な学習ができています」生徒の肯定的評価70%以上 「シラバスを効果的に活用し、計画的な学習指導ができています」教職員の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は68.9%(+4.6)であり、目標には届かなかったが昨年度より改善された。教員の肯定的評価は56.1%(-10.6)であり、シラバスの内容改善及び有効活用が求められる結果となった。	B	B	生徒が主体的・計画的に学習に取り組む上で、シラバスは非常に重要なものだが、詳しくなくてもわかりにくいものになる。端的な表現を心がけて、生徒が学校の教育を十分に理解できるものにしてほしい。	○生徒の主体的な学習を促す取組は生徒の自立を促す取組との相乗効果を踏まえて平素から粘り強く継続して取り組んでいく必要がある。 ○学習到達度や学習意欲の低い生徒には個別指導をなお一層充実させる必要がある。さらに、テスト反省の意義を理解させ、意欲的な取組をなお一層促す必要がある。
			2	「プリントや補助教材、IT機器などを用いて効果的な授業に努めている」教職員の肯定的評価95%以上	教員の肯定的評価は97.6%(-0.2)であり、今年度も高いレベルで目標を達成できた。				
		活動計画	1	シラバスや手帳、面談、集会などを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	手帳を活用した学習スケジュール管理や各教科・学年での学習方法ガイダンスなどを通して、生徒への啓発を行ってきた。また、長期休み以外にも各学年ごとに個別面談を実施し、意識の高揚を図った。				
			2	教材研究時間を確保し、各教科でプリントや補助教材の共有を図る。	各教科内で教員同士の連携を深め、教材の選定・共有を積極的に図った。				
	(2) 指導方法の工夫・改善	評価指標	1	「授業力向上に、授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は100%(+2.2)であり、今年度も高いレベルで目標を達成できた。	A	A	生徒の主体的な学習への取組を促すため、プリント・補助教材の工夫や授業改善に積極的に取り組んだ結果、目標には届かなかったものは3項目であった。 多忙な中、授業力向上に向けて創意・工夫されている先生方の取組はすばらしい。 SSH事業を学力の向上に上手く活用していると思う。活動実績を見ても、様々な分野で全国有数の賞を受賞するなどすばらしい成果を収めている。今後も引き続き生徒の学力向上に努めてほしい。	○協力的問題解決学習研修を一層充実させ、SW-ing SLCを意識した授業を全教員で実施することで、学校としてベクトルのそろった指導を図っていく必要がある。
			2	「指導方法や内容の精選、教材の共有などについて、教科内での連携を密に行っている」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は97.6%(+2.0)であり、今年度も高いレベルで目標を達成できた。				
		活動計画	1	授業研究週間を年2回(各2週間)設けるとともに、協力的問題解決型の授業公開を全教職員が行う。	すべての教員が授業公開や授業見学を行いやすくなるよう、見学シートの工夫などを行った。				
			2	各教科で教科会や授業担当者打ち合わせを適宜開催し、学習指導方法の工夫や改善について検討する。	教科会を定期的に行うことはできなかったが、各教科で授業進捗の確認や考査問題の吟味を通して、指導法の工夫や改善を行った。				
	(3) 学習習慣の確立	評価指標	1	「週末課題に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は79.6%(+10.9)と昨年度より大幅に改善が見られた。目標も達成できた。	B	B	生徒の「週末課題」に取り組む姿勢は改善が見られたが、各種テストに向けた計画的な学習に主体的に取り組む意識付けが課題である。 各種SSH事業に対し、教材研究や授業改善に積極的に取り組み、SSH事業を通じて多様な学びの場を提供してきた結果、生徒の評価も非常に高い。	○日常の学習習慣が確立されていない生徒が少なくない。小テストや週末課題をより効果的に実施し、日常の授業に対する予習・復習を欠かさない指導を粘り強く継続する必要がある。
			2	「確認テスト・小テストに向けて学習に取り組んだ」生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は75.2%(-1.7)と昨年度に及ばなかったが、目標を達成できた。				
		活動計画	1	予習・復習を督促し、週末課題を活用することで生徒の学習習慣の確立を図る。	週末課題の量について教科間で話し合い調整することで、生徒が自主的に学習できるよう配慮した。				
			2	確認テストや小テストを通して基本事項の定着を図り、主体的な学習に結び付ける。	定期的に小テストを実施し、知識理解の定着を図った。				
	(4) 目的意識を持った学習態度の育成	評価指標	1	「定期テスト・実力テスト・校外模試に向けて計画的に学習している」生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は72%と低かった。1学年の肯定的評価は66%で、特にテストに対する意識が低いのが目立った。	C	C	協高のホームページを見ると、たくさんの情報が十分に掲載されていると思う。なぜこのように低い評価になったのか不思議な気がする。何が理由なのか。なお改善すべき点があるのであれば、それを把握し対応してください。	○定期考査・実力テスト・校外模試ともに欠席者が多く、別日程を組まなければならない場面が多かった。そのため実施後すぐの復習ができなかった一面もある。テストに臨む姿勢から啓発していく必要が感じられた。
			2	「定期テスト・実力テスト・校外模試の反省・復習を行っている」生徒の肯定的評価70%以上	テストの反省に対して予習復習ができていたのは1年生で55%。2・3年生の70%に対して意識の低さが目立った。				
		活動計画	1	定期テスト・実力テスト・校外模試に向けて、主体的・計画的に学習させ、学力の向上と進路目標の実現に向けて努力させる。	模試等の成績を見てみると、主体的に学習できている生徒と、学習習慣が確立できていない生徒との差が大きくなってきている。				
			2	定期テスト・実力テスト・校外模試の結果を検証し、授業や個別面談等で指導する。	テストの事後指導が不十分であることがアンケート結果に表れている。教員との意識の差が大きかった。				
	(5) 家庭学習の充実	評価指標	1	全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上。1年生2.7時間以上、2年生2.8時間以上、3年生3.5時間以上。	家庭学習時間は年平均で1年生2.27、2年生2.44、3年生3.63で目標を達成できたのは3年生だけであった。	B	B	PTA総会、学年部会とともに目標値を達成することができたが、総会への参加率については、学校と保護者との連携を深める場としてさらなる向上をめざす必要がある。また、ホームページを通じての情報発信については、更新回数に加えて、内容の一層の充実が求められている。	○2年生の後半から進路に対しての意識向上ができてきた。3年生ではほとんどの生徒が高い意識を持ち始めているものの、やはり低学年からの学習習慣づけが足りないせいか、成績が伸び悩んだ生徒も多い。特に1年生での意識付けが今後の課題である。
			2	家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合を、4%以下にする。	第5回において家庭学習時間1時間未満の生徒は、1・2年生合計で3.2%であった。				
		活動計画	1	家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、指導に活用することで学習習慣を確立させる。	第5回の調査で学習時間の向上が見られた。現状を指導につなげることで、学習週間の向上につなげることができた。				
			2	学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、家庭での学習習慣の必要性を理解させる。	PTA学年部会や学年での集会等において家庭学習の重要性と、現状を示し、指導につなげた。				
	(6) 興味・関心を高める教育	評価指標	1	「生徒の興味関心を高める教材の研究や授業の工夫・改善を積極的に行った」教職員の肯定的評価90%以上 「興味・関心を持って授業に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	教員の肯定的評価は95.1%(-2.7)と昨年度には及ばなかったが目標を達成できた。また生徒による授業に対する意欲調査については79.4%(今年度初調査)と、ほぼ目標値を達成できた。	A	A	○教材の工夫・改善は、各々の教員が熱心に取り組んでいるところだが、教員の負担感がかなり大きい。次年度も生徒の興味・関心を高める教育を実践するために、業務の精選が課題である。	
			2	「SSH事業の各種活動に参加してよかった」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価が84.5%(昨年84.1%)であり、今年度も高いレベルで目標を達成することができた。				
		活動計画	1	文献や書物に接する機会を増やし、話題に富んだ授業を行うなど、生徒の興味・関心を高める工夫がなされた、わかりやすい授業を行う。	SW-ingや課題研究等の活動を通して、生徒が文献や書物、公文書等に接する機会を積極的に設定した。それぞれの教員が工夫を重ねた授業実践を行った。				
			2	魅力あるSSH事業を展開し、知的好奇心を向上させる。	Society5.0社会に向け、IoTやAIを活用するカリキュラムを開発するなど、新しい視点でSSH事業の推進を図る。				
	(7) 家庭との連携	評価指標	1	「保護者のPTA総会・学年部会の参加者数」保護者参加者数の割合50%以上	PTA総会参加率は51.0%(1学年54.5%、2学年47.1%、3学年51.4%)、学年部会参加率は65.7%(1学年64.9%、2学年65.4%、3学年70.9%)であった。	B	B	○PTA総会は学年部会と異なり進路関係の情報提供も少なく、保護者の関心も低い傾向にある。特に2学年の保護者の参加が増加するよう、工夫していく必要がある。学校と家庭が協力体制を組む上で、総会が課題の共有や連携の場として重要である点を周知し、参加率のさらなるアップをめざしたい。 ○より見やすく情報が伝わりやすいページになるように、改善していく。	
			2	「ホームページは、学校の活動状況等を理解するのに役立っている」保護者の肯定的評価70%以上	肯定的評価は64.2%(-7.3)と昨年度より厳しい評価となり、目標を達成できなかった。				
		活動計画	1	PTA総会や学年部会への積極的な参加を促す。また、各学年の保護者に応じた情報提供ができるよう学年部会の内容等を充実させる。	行事予定については、時間的な余裕を持って文書配付により告知を行った。また、各クラスでも生徒を通じて積極的な参加を呼びかけたり、PTAの役員会等でも保護者間で参加を促してもらえるようお願いし、その成果があった。				
			2	ホームページの更新を年間200回以上実施する。	ホームページの更新を、年200回以上実施できた。				

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

2	高い志を持ち、目標の実現に向けて努力し、将来、社会のリーダーとして活躍しうる生徒を育成する。	(1)	望ましい職業観・早期の進路意識の育成	評価指標	1	「小論文・講演会・SSHの諸活動を脳高手帳に記録し、進路意識を高めるよう努力した」生徒の肯定的評価70%以上 「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識の向上に努めた」教員の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価は52.7%で、毎日の記録は脳高手帳を利用できているようだが、小論文や講演会等の行事の記録まではあまり活用できていないようだ。教職員の肯定的評価97.6%となり、生徒の意識向上に向けてのHR活動や授業での指導は目標達成できている。	B	B	生徒の進路状況を見ると、年度途中のものではあるが、例年同様に十分すばらしい成果をあげている。	○本格的に進路決定に取り組む時期が3年生の後半であるため、これまでの記録がいかに重要だったかを認識する時期が遅かったかもしれない。次年度からの入試制度をもっと詳しく説明する必要がある。					
				2	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立つ」生徒の肯定的評価70%以上	肯定的評価は63.3%(昨年59.5%)となり、数値は改善することができたが目標を達成することができなかった。										
			活動計画	1	小論文・探究活動・講演会・W-ing/SW-ingプランの活動に積極的かつ意欲的に取り組ませるとともに、進路を考える機会となるよう指導する。授業やホームルーム活動の中で、生徒の進路意識を向上させるよう働きかける。	新しい入試制度の中で、ポートフォリオが重要であるという認識がまだ不足している。進路に関するHR活動の充実の必要性を感じる。										
				2	SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	多様な分野が提示できるよう、多様な14分野で講師を招きSW-ingカレッジを実施した。										
			(2)	個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	評価指標	1	「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価85%以上「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価85%以上					個別面談等、進路指導はしっかりできていた。生徒の肯定的評価92.2%。保護者の肯定的評価89%であった。	B	B	本校のきめ細やかな進路指導に対する評価は生徒・保護者ともに高かったが、進路情報の提供については、入試制度改革に不透明な部分が多く二転三転したこともあり、1・2年生の不安を払拭することはできなかった。	これまで英語検定の受験率の向上をお願いし取組を進めてきていたが、国の方針転換もあり、混乱があったと思う。しかし、英語4技能の重要性は変わらないので、生徒のケアをしっかりとしていただいで、4技能の育成を進めていってほしい。
					2	「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	肯定的評価は保護者には90%を越えていたが、生徒には3年生が82%だったものの、1・2学年では65~70%と評価が少なかった。									
		活動計画		1	定期的な個別面談や三者面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	個別面談を通して適切な進路相談ができた教員評価が96%であり、保護者評価とはほぼ一致していた。										
				2	高大接続改革の情報を含め、必要な進路情報を生徒・保護者に分かりやすく提供するとともに、『道標』の内容を充実させる。	大学入試制度の大きな変更等があり、その情報提供に努めた。										
		(3)	生徒保護者が希望する進路目標の達成	評価指標	1	生徒・保護者から希望の高い国公立大学への合格者数が、在籍生徒数の50%以上	3月31日現在、国公立大学合格者は、93名。在籍生徒の49.5%となった。	B	B	生徒会が主体となって各種学校行事やボランティア活動に取り組み、修学旅行での自主研修を含め、生徒の主体性・社会性の育成に一定の成果を収めることができた。	○学習と部活動のバランスを意識するよう指導していたが、二割程の生徒ができていないと感じている。また、できていないと感じている保護者の割合は生徒よりも多い。今後は部活動単位でバランスを取った活動を考慮し、その取り組みが家庭でも生かされるよう指導していきたい。					
				2	「部活動顧問は、生徒の学習状況を考慮してバランスのとれた活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	肯定的評価は生徒79.6%、保護者77.6%であった。										
				活動計画	1	日常の取り組みを学習成績に反映させ、丁寧な進路指導を行うことで個々の進路実現に結びつける。	個別面談の充実・指導の強化により就職希望者は100%、進学希望者は3月31日現在、91.3%の生徒の進学先が決定した。									
					2	学習と課外活動とのバランスを取りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	学習と部活動のどちらか片方だけではなく、両方を高い次元でバランスをとらせることを目標として指導した。									
		(4)	将来、社会において活躍しうる協高生の育成	評価指標	1	「学校祭や球技大会などの学校行事は、生徒会が中心となり活発に活動できている」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は94.7%であった。スムーズな運営ができるよう、生徒会役員としっかり連携を取り、実施に向けての準備も時間を掛けて行った。	A	A	学習指導要領の改訂を受けて英語4技能の育成に向けた取組を充実させ成果を収めることができたが、大学入学共通テストの方針変更を受けて、計画の一部見直しが必要である。	○次年度も生徒が楽しみながら独創的な活動ができるよう、生徒会役員と連携を取り、生徒からの意見を重要視して活動を促していきたい。○服装や言葉遣い、挨拶に関する指導は継続的に行うことができ、生徒の意識も高いので、次年度も続けていきたい。生徒会の挨拶運動も自発的に回数を増やして行うことができたので、こちらも継続していきたい。					
				2	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」生徒の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価は93.4%で目標値を上回った。										
				活動計画	1	学校祭や球技大会などの学校行事を、生徒会主体で積極的に運営し、協働意識を高め、社会性を育てる。	前年度まで通りのことを行うのではなく、生徒の中から出てくる意見やアイデアを重要視して取り組ませることができた。									
					2	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。	毎週の初めに、職員朝礼ですべての職員に呼びかけ、周知徹底を図った。すべての職員で取り組むことができ、成果を上げた。									
		(5)	将来、社会に貢献しようとする人材の育成	評価指標	1	「ISO清掃活動等、各種ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価50%以上	生徒の肯定的評価は49.2%で目標値まで届かなかった。	B	B		○今年度はカンボジアに井戸を作る資金が貯まり、募金することができた。今後も各種ボランティア活動の広報や啓発を強化し、ボランティア活動に積極的に参加する意識を更に高めていく必要がある。					
				2	「修学旅行の自主研修に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の割合80%以上	生徒の割合87.4%で目標値を上回った。										
				活動計画	1	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	各クラスに掲示などで啓発に努めた。カンボジアに井戸を作る資金を募金する等、意識は高まった。									
					2	修学旅行の自主研修「企業・官公庁等訪問」やその事前研究、事後発表を充実させ、社会への関心を高める。	例年通りの行事を実施することができた。									
		(6)	グローバル化に対応できる人材の育成	評価指標	1	「GTECや英検の受験、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価59.5%(-1.9)とわずかに目標値を下回った。しかし、2年生は英語外部検定試験に備えていた結果、特にライティングの成績が向上し、1年生はCEFR A2以上(英検準2級以上)の成績を取得した生徒が67.6%だった。	A	A	○新入試に向け、英語4技能のバランスのとれた育成を目指す。特に共通テストでは読解力やリスニング力が問われるため、語彙力の強化、多読及び精読に重点を置いて取り組ませる。 ○国際問題に関心が持てる授業内容を実施する。時事問題の知識や単語力をリスニングや読解に活用させる。						
				2	「国際社会の様々な問題に興味・関心を持ち、書籍・インターネット等を利用して調べている」生徒の割合が50%以上	生徒の肯定的評価50.0%(+1.3)と目標値を上回った。貧困や差別、環境問題など国際社会の様々な問題を授業で取り上げ、プレゼンや調べ学習に取り組むことができた。										
				活動計画	1	生徒の英語学習への意欲を高め、GTECや英検の受験をすすめる。国際理解教育の充実をはかり、コミュニケーション能力向上のためにリスニングやスピーキングテストを取り入れる。	GTEC受験率は1年生99.5%、2年生98.9%、英検受験率は学校全体(準2級・2級・準1級の年間合算)で41.4%だった。学習指導要領の改訂に向け、より積極的な受験を今後も促していく。リスニングテストは全てのテストにおいて、スピーキングテストは1・2年生とも年1回実施できた。									
					2	書籍・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	プレゼンテーションやディスカッションの事前学習として、インターネットや書籍を活用できた。									

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

3	自己有用感や自己肯定感を育み、仲間と協働できる豊かな心をもち、公共心を備えた、たくましい生徒を育成する。	(1)	環境美化・防災に対する意識の向上	評価指標	1	「清掃活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価82.7%(-5.7)と目標数値を上回った。	B	B (所見) 評価指標について、14項目中達成できたのは8項目、部分的に達成できたのは3項目、達成できなかったのは3項目であった。	<p>携帯電話やスマートフォンの利用に関して設定している目標数値が高いのではないかと。今は中学校段階で家庭でのルール作りをしている家庭が多いので、高校ではむしろ生徒が自己管理できているかどうかという点に焦点を当てていった方がよいのではないかと。</p> <p>防災教育、環境教育、人権教育はいずれも大変重要なものだと思う。引き続き取組を推進してほしい。</p> <p>人権教育については、一部達成できなかった数値もあるが、ほぼ達成できていると考えてもよいのではないかと。特に「人権問題について家庭で話し合う」ことに対する保護者の肯定的評価が4割超であるということは高校では非常に高いと言え、良い人権教育が行われていると思う。</p>
				2	「防災訓練に、関心を持って積極的に参加している」生徒の肯定的評価75%以上	防災訓練について関心を持っている生徒は72.2%(-0.6)と昨年よりも意識が低下している。				
		活動計画	1	快適な環境で学習できるよう、清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組ませる。	ゴミの分別は十分できている。校舎内に付着しているクモの巣等も掃除できている。					
			2	高校生防災士を活用して、参加体験型訓練など体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	防災訓練を参加体験型として、煙体験避難訓練や防災クラブ員がリーダーとなって消火訓練等を行った。					
		(2)	集団や社会の一員として協力	評価指標	1	「ホームルーム活動や部活動を通して、好ましい人間関係ができています」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は90.3%で目標値を上回った。	A		
				2	「授業や小論文・人口減少社会などの探究活動・講演会を通じ、社会的問題を主体的に考える意識が高まった」生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は80.5%で目標値を上回った。				
		活動計画	1	ホームルーム活動や部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、仲間と協力して目標に向かって努力できる生徒を育成する。	協働的にホームルーム活動を進めたり、部活動内での役割を意識して取り組ませることを意識して指導できた。					
			2	主権者教育年間計画表に従い、主権者意識を高めるための授業、ホームルーム活動、総合的な学習の時間、学校行事を実施する。	教科学習や探究活動で協働性を育んだ他、生徒会役員選挙を活用した模擬投票や2学年対象の講演会等で政治的教養を高めた。また、生徒会役員と有志生徒は「新未来セッションNEO」や県議会議員との意見交換会に参加し、意見を交わした。					
		(3)	基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進	評価指標	1	「交通安全・交通マナーについて、日ごろから十分意識し、守っている」生徒の肯定的評価90%以上 交通事故等を昨年度より減少させる。	生徒の肯定的評価は93.1%で目標値を上回ったが、交通事故件数は増加した。	C		
					2	「学校では携帯電話やスマートフォンの利用時間を守っている」生徒の肯定的評価90%以上 「家庭では携帯電話やスマートフォンの利用について何らかのルールを設け、守っている」生徒の肯定的評価90%以上	毎週の初めに職員朝礼で、校内でのスマートフォンの利用について周知徹底を図った。「学校では携帯電話やスマートフォンの利用時間を守っている」生徒の肯定的評価89.0% 「家庭では携帯電話やスマートフォンの利用について何らかのルールを設け、守っている」生徒の肯定的評価57.4%で、目標値を下回った。			
				活動計画	1	バイクの安全運転実技講習会を開き、車体検査を各学期に行う。また、登下校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	バイクの安全運転実技講習会や車体検査を実施し、交通安全教育を徹底した。毎週の初めに、職員に周知徹底を図り、一定の成果が上がったが、交通事故件数は昨年度8件から16件に増加した。			
					2	個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い、情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォン等の利用ルールを守らせる。	情報モラルについてのパンフレットを積極的に利用し、スマートフォン利用について注意喚起を実施した。毎週の初めに、職員朝礼ですべての職員に呼びかけ、周知徹底を図った。すべての職員で取り組むことができ、成果を上げた。			
		(4)	保健指導の充実	評価指標	1	「保健だよりの発行」年間10回以上	保健だよりを、毎月1回発行することができた。	B		
					2	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員100%	教職員の肯定的評価97.6%で、目標値を達成することができなかった。			
				活動計画	1	時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	時節や生徒の生活状況に応じた保健だよりを発行することができた。			
					2	教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実を努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	教職員に加え、部活動の代表生徒への救急法講習会を1回実施することができた。			
		(5)	教育相談及び特別支援教育の充実	評価指標	1	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生や友だちがいる」生徒の肯定的評価85%以上 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者肯定的評価85%以上 「生徒や保護者の相談に、誠実に対応できている」教職員の肯定的評価90%以上	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生がいる」生徒の肯定的評価90.3% 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者の肯定的評価89.5% 「自己理解調査や職員研修を生かし、学級や部活動などで生徒の居場所作りを努めることができた」教員の肯定的評価は90.2%だった。生徒、保護者、教員すべての評価において目標を達成することができた。	A		
					2	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備や授業づくりに努め、組織として迅速かつ臨機応変に対応できる」教職員の肯定的評価85%以上	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備や授業づくりの工夫ができた。」教職員の肯定的評価95.2%で目標を達成することができた。			
				活動計画	1	悩みや不安など、様々な困り感を抱えていながらも言い出せない生徒がいることを常に意識し、生徒が相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。	スクールカウンセラーを招いて本校の生徒の特性や特徴的な捉え方について学んだ。多くの教員が、悩みや不安を抱えている生徒が多くいると実感した。			
					2	担任をはじめ教科担任や部活動顧問、関係機関とも連携し、生徒が安心して学校生活を送れるよう工夫し、組織として、迅速かつ臨機応変な対応に努める。	不登校や悩みのある生徒について、保護者と連携して、徳島県精神保健福祉センターの思春期外来やスクールカウンセラーの利用をすすめるなど、関係機関とも連携できた。			
		(6)	人権教育の推進	評価指標	1	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」生徒の肯定的評価80%以上 「子どもが学校で人権問題について学んだことを、家庭で話し合う機会がある」保護者の肯定的評価40%以上	生徒の肯定的評価は81.6%で、昨年度より3.4%低下しているが、目標を達成することはできた。また、保護者の肯定的評価も41.1%で、昨年度の40.1%を少し上回った。	B		
					2	「人権学習ホームルーム活動は充実している」生徒の肯定的評価85%以上 「すべての教育活動の中で、人権に配慮した指導ができている」教職員の肯定的評価90%以上	話し合いを中心に据えた活動や、実施された一斉ホームルーム活動は活発だったものの、生徒の肯定的評価は84.0%と、85%には届かなかった。また、過去3年間で一番低い結果となっている。教職員の肯定的評価は97.6%と昨年度同様に高い評価となっている。			
				活動計画	1	人権問題をより身近なものとして捉え、実践的態度につなげるために、人権委員が主体となり「協高入権の日」のテーマ設定や資料づくりを行う。また、その日のテーマを家庭でも共有し、広がりある人権教育に結びつける。	「協高入権の日」のテーマ設定や資料づくりを1・2年生の人権委員が1～2クラスずつで担当した。高校生の視点を取り入れたテーマで、主体的に資料作成に取り組む姿勢が見られた。「人権の日だから語る会」への、人権委員・人権「いのち」の会生徒以外の参加者は例年程度である。			
					2	生徒の実態に合わせてホームルーム活動で扱うテーマを再構成するとともに、各学年で指導案や資料を十分に検討し、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。また、全学年で学年一斉の人権学習ホームルーム活動を年間1回実施する。これらの活動を柱に、すべての教育活動の中で人権に配慮した指導の実現を図る。	今年度は、一斉ホームルーム活動を全学年で実施することはできなかった。また、1学年における人権「いのち」の会生徒が進行する一斉ホームルーム活動も実現していない。			
		(7)	感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	評価指標	1	「学校行事・修学旅行・文化祭等の学校行事を通して、芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価84.2%。目標を達成することができた。	A		
					2	「普段から読書に親しんだり、朝のコラムや新聞を読むように心がけている」生徒の肯定的評価60%以上 図書貸出し数・入館者数の増加	「普段から読書に親しんだり、朝のコラムや新聞を読むように心がけている」生徒の肯定的評価58.6%で、前年度比-1。図書貸出し数・入館者数ともに増加した。			
				活動計画	1	学校行事・修学旅行・文化祭等の活動の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。	例年通りの行事を実施することができた。			
					2	読書推進週間を設け、図書館だよりの充実やコラムの継続及び読書の推進を図る。	各学期末に読書推進週間を設け、展示の工夫をするとともに毎月図書館便りを発行した。朝の新聞コラムは年間を通じて継続し、100号を越えた。			

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった